

# 令和5年度事業計画書

公益財団法人熊本市美術文化振興財団

## 【財団の目的】

美術をはじめとした文化芸術に関する調査研究、教育普及、展覧会事業等を基礎とし、美術館等の活発な管理運営を推進することを通じて、教育や福祉の充実、産業の活性化、地域の再生など様々な分野において、文化芸術の持つ創造性を活用し、心豊かな市民生活を実現するとともに都市の活力と魅力を高める、熊本市のまちづくりに寄与することを目的とする。

## 【財団の目的を達成するための事業】

- (1) 美術館等における文化芸術の調査研究等事業
- (2) 美術館等における文化芸術活動の支援及び教育普及等事業
- (3) 美術館等における展覧会事業その他の文化芸術の振興事業
- (4) 前1号から3号の事業を行うための美術館等の管理運営
- (5) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

＝ 熊本市からの受託事業 熊本市現代美術館の指定管理業務 ＝

2019年4月1日-2024年3月31日（5年間）：非公募（5年目）

## 【熊本市現代美術館の設置目的】

市民が美術文化を享受するとともに、美術に関する知識及び教養の向上を図り、市民文化の発展に寄与すること

## 【熊本市現代美術館の管理にあたっての基本理念】

指定管理者は、美術館の設置目的と熊本市文化芸術振興指針に基づき、管理にあたる。熊本市と指定管理者は、熊本市の文化施策の目指すものを共有し、指定管理者がその補完を行うことができるよう、連携・協力をする。

## 【基本理念に基づき、財団がめざす、熊本市現代美術館の方向性】

### **【ミッション】**

熊本市現代美術館は、多様なものを受け入れる寛容なまちと市民が心豊かに生きることができる未来を創造する。

### **【ビジョン】**

熊本市現代美術館は、一人ひとりの市民にとって、なくてはならない「現代の美術館」をめざす。

## 【美術館の管理に関する基本的業務】

(1) 来館者が快適に過ごせるサービスの実施及びサービス向上のための工夫 **〔共通〕**

- ① 基本的なサービス
  - ・利用者の平等な利用の確保
- ② 来館者へのサービス向上及び館内ホスピタリティの充実
- ③ 安定した施設管理能力の確保
  - ・職員の資質向上（研修等）
- ④ 市との連絡調整、苦情対応
- ⑤ 新型コロナウイルス感染防止対策取組み 他

### 1. 利用者の平等な利用の確保

(1) 全ての来館者が等しく利用できる環境づくりのための方策

- ① ホームギャラリーの運営
- ② キッズサロン（まちなか子育てひろば）の運営協力
- ③ アートスカイギャラリーの運営
- ④ アートラボマーケットの運営
- ⑤ その他の館内運営
  - ・月曜ロードショー（映画）
  - ・読みがたり（ボランティア活動）
  - ・ミュージック・ウェーブ（音楽関係：コンサート）等赤ちゃんからお年寄りまで気軽に立ち寄れる施設運営  
※ コロナ禍以後の方向性として、より一層の安心安全な運営を目指す

### 2. 公の施設の効用を最大限に発揮するためのサービス

(1) 美術館広報及びセールス計画の充実のための取り組み

- ① パンフレット等作成
  - ・美術館リーフレット、年間スケジュール等の作成及び頒布
- ② ホームページ作成、管理及び更新
  - ・ICTの活用（HP・Twitter・facebook・Instagram・YouTube等）
- ③ 幅広い広報手段の活用
  - ・アートスカイギャラリーにおけるフライヤー設置での情報提供

(2) 地域振興・活性化に対する取り組みと、地域・学校・その他団体・施設等との連携の方策

- ① 中心商店街、熊本市各課等との連携
- ② 教育機関との連携
- ③ 市内外、県外の文化施設との連携

(3) サービス向上と利用促進

- ① 事業内容等に関するアンケートを常設し、月毎に集計、分析を行う。

- ② 各種イベントにおいても、事業内容等に関するアンケートを実施し、次回の事業の参考にして、美術館の利用促進を図る。

### 3. 市民の声が反映される管理

- (1) 利用者ニーズの把握に対する取り組みとその反映の方策
- ・館内アンケートを常設し、美術館や事業に対する来館者の意見を分析する。
  - ・電話やメールでの意見・提案・問い合わせ等について、迅速・真摯に対応する。
  - ・外部審議員とともに取り組む中・長期的な課題の改善と解決。
- (2) 美術館の使用許可、取消、停止命令に関する業務 [収益・公2]
- ① アートロフト、会議研修室 [収益]
- ② 美術品特別利用の使用許可に関する業務一般 [公2] (2) 公表方法3
- (3) 美術館の施設維持管理に関する業務 [共通]
- ① 美術館施設維持管理業務
- ・設備運転管理業務
  - ・有人警備業務
  - ・清掃業務
  - ・AV設備保守点検業務
  - ・防火設備定期検査業務
  - ・セキュリティ設備・監視カメラ保守点検業務
  - ・調光設備保守点検業務
  - ・放送音響設備保守管理業務
  - ・美術情報システム運用保守管理業務
  - ・ホームページ維持管理業務
  - ・図書装備業務
  - ・施設賠償責任保険・ガラス保険業務
  - ・アートロフト手動式昇降ステージ保守点検業務
  - ・アートロフトプロジェクタ設備賃貸借業務
  - ・電話設備賃貸借業務
- ② 美術館施設修繕等業務

企画事業 1 美術品及び美術に関する資料の収集、保管、展示及び利用に関する業務 [公2]

ア 事業内容 1, 2, 3, 4、ア 公表方法 1, 2, 3、イ

- (1) 美術品の収集に関する業務 (ア 事業内容 1, 2)
  - ① 調査及び報告
  - ② 委員会の運営支援
- (2) 美術品等の保管に関する業務 (ア 公表方法 2, 3 イ)
- (3) 美術品等の展示に関する業務 (詳細は【1】 - 【5】) (ア 公表方法 1 [公1 (2) ア])
- (4) 収蔵品の利用に関する業務 (ア 事業内容 4 イ)
  - ① 他館への貸出
  - ② 情報公開

展覧会の企画・開催等に関する業務 [公1]

【1】メインギャラリーでの展覧会開催 アー1、エ

《目標入場者数：111,660人》

①	坂口恭平日記 展	
	4月1日(土)～4月16日(日) (前年度の会期：2月11日～3月31日)	<目標入場者数：2660人 (8,000人)>
	坂口がこれまで描いてきたパステル画約700点を紹介。パステル画とアトリエを通して坂口の思考と創造の営みを紹介することにより、私たち自身の生きる日々を見つめなおします。	
②	CAMK コレクション vol.7 未来のための記憶庫 展	
	4/29(土)～6/25(日) 開催日数(50日間)	<目標入場者数：7,000人>
	別紙のとおり	
③	動画クリエイター展	
	7月8日(土)～9月24日(日)(68日間)	<目標入場者数：60,000人>
	別紙のとおり	
④	遠距離現在 Universal/Remote 展	
	10月7日(土)～12月17日(日)(62日間)	<目標入場者数：8,000人>
	別紙のとおり	
⑤	第35回熊本市民美術展 熊本アートパレード	
	2024年1月13日(土)～1月28日(日)	<目標入場者数：4,000人>

	(14日間)	
	15歳以上（中学生は除く）の熊本市在住、在勤、在学者、熊本市出身者ならだれでも無審査で出品することができる公募展です。（審査員：検討中）	
⑤	RKK 熊本放送開局 70 周年記念 ミュシャ展 マルチ・アーティストの先駆者	
	2024年2月10日（土）～2024年4月7日（日）	<目標入場者数：30000人>
	(50日間)	
	別紙のとおり	

【2】 井手宣通記念ギャラリーでの展覧会開催 **ア-2**

- ① 井手宣通の作品を中心に収蔵作品を紹介・展示  
・CAMK コレクション展 他

【3】 ギャラリーⅢでの展覧会開催 **ア-2**

- 熊本または九州ゆかりのアーティストや文化にスポットを当て、応援する展覧会  
・中村賢次展（熊本出身・在住の日本画家）  
・烏山秀直展（長崎出身・在住の現代美術家） 他

【4】 エントランス・階段ギャラリー等への作品展示 **ア-3**

- ① 収蔵作品の公開、子どもの作品展示  
② まちづくり関連の展示

【5】 次年度以降開催予定企画展の企画・準備 **ア-1,2,3**

企画事業2 美術に関する調査及び研究に関する業務 **〔公2〕ア 事業内容1,2,3,4**

(1) 郷土の特色ある美術や文化等の調査・研究

- ① 熊本及び九州に根付く芸術文化やアーティストに関する調査・研究  
② 生人形など収蔵作品に関する調査・研究

(2) 現代美術を中心とした多彩な芸術分野の調査・研究

(3) 美術館運営や人材育成等、文化施策に資する調査・研究

- ① アートマネジメントに関する調査・研究  
② ミュージアム I P M等に関する調査・研究  
③ 災害時における文化施設の役割に関する調査・研究  
④ 外部審議会運営に関する調査・研究

(4) その他市民文化の発展に寄与する調査・研究

- ① 市民参加型文化・芸術プロジェクトに関する調査・研究  
② アートを活用したまちづくりに関する調査・研究

(5) 上記各号の調査・研究成果の発信

- ① 調査・研究によって蓄積された学術的成果については、美術館活動（展覧会・講演・

論文寄稿・出版・ホームページ等)を通じて広く国内外に発信

### 企画事業3 美術に関する情報の収集及び提供に関する業務

- (1) 国内外の芸術活動に関する情報等の収集・提供 [公2]ア 公表方法1, 2, 3
- (2) 地元の芸術活動に関する情報等の収集・提供 [公2]ア 公表方法1, 2, 3
- (3) 地元で開催される芸術活動に関する後援等 [公3]イ-3

### 企画事業4 美術等の普及並びに市民の創作活動等の指導及び助言に関する業務 [公3]ア

※ ※コロナ禍以後の方向性として、より一層の安心安全な運営を目指す

- (1) 展覧会に関連する教育普及及び活動の実施
  - ① ギャラリーツアー
  - ② 探検ツアー
  - ③ 鑑賞補助シートの設置
- (2) 芸術文化に関わる体験や創作活動の場の提供
  - ① ワークショップ等の開催
    - ・アートラボマーケットでの創作活動 (ミュージアムショップとの共同運営)
- (3) 文化活動への支援・協力
  - ① 中心商店街等との連携
    - ・ストリートアートプレックスの協働開催
    - ・上通アートプロジェクト
  - ② PTA 学級活動や子ども会活動へのプログラム支援
- (4) 人材の育成
  - ① 地元ゆかりのアーティストの支援
  - ② 音楽、ダンス等の表現者の発表の機会の提供
  - ③ 美術館における実習や研修 (学芸員実習等)
- (5) ボランティア活動の支援
  - ① 図書チェック、布絵本、発送、イベント補助、ピアノ演奏、読みがたり等
- (6) 子どもや学生等を対象とした企画
  - ① アートバス事業
    - ・市内小学校の1学級～1学年程度：年間5～6校程度
    - ・高齢者福祉施設 (年1回程度)
  - ② アートプログラム (熊本市内の小中学校等へアーティストを派遣)：年間4校程度
  - ③ 1年生ようこそカードの発行 (新1年生全員に子ども向け美術館パンフレットを配布。持ってくると大人一人が無料となる。ワークシート参加者に記念品プレゼント。)
  - ④ 子育てひろばワークショップ
  - ⑤ 美術を学ぶ中高・専門・大学生との交流

## 企画事業5 図録・案内書等の作成及び頒布に関する業務〔公1〕ア-1,2

- (1) 収蔵品等に関する案内書、解説書等の作成・頒布
  - ① アートワークの解説パネル設置
  - ② 井手宣通の紹介冊子配布
  - ③ 井手宣通記念ギャラリーでコレクション展示の案内・所蔵作品展解説シート配布
- (2) 展覧会等の目録を作成
  - ① 展覧会毎に配布する出品作品リスト一覧
- (3) 展覧会等の図録の作成及び頒布
- (4) 年報、調査研究の報告書等の作成及び頒布〔公2 公3〕
  - ① フリーペーパー「アートキッスレター」（年5回程度発行）〔公3〕イ-2
  - ② 報告書「アート・ガマダス」〔公2〕ア 公表方法1
    - ・講演会の載録や、研究論文などホームページにて随時掲載
  - ③ 美術館での催し物や活動の内容を、館のホームページにて公表

## 企画事業6 講演会、講習会、講座、研究会等に関する業務〔公1〕ウ

- (1) 展覧会等に関する講演会等の開催
  - レクチャー・カレッジ（担当学芸員による講演会・トーク）
    - ・トーク&ワークショップ「記憶庫から記憶を引き出してみる」
  - アテンド：佐々木玄太郎（熊本市現代美術館 主任学芸員）
  - 日時：4月29日（土・祝）14:00-15:30 他
- (2) 展覧会記念講演会
  - ・トーク「更新される“コレクション”の概念」
  - 講師：平諭一郎（東京藝術大学 未来創造継承センター 特任准教授／熊本市美術品等収集審査委員会委員）
  - 日時：5月13日（土）14:00-15:30 他
- (3) アーティスト・トーク
  - 展覧会の出品アーティスト自らが展覧会や作品について語る講演会
    - ・遠距離現在 Universal/Remote 展で開催予定（調整中）
- (4) シンポジウム・研究会
  - ・外部審議会と行うシンポジウム「まちづくりと美術館（仮）」（日程未定）

## 企画事業7 その他、美術館の設置目的を達成するために必要な事業（自主事業）

- 1 その他、各種団体との連携
  - (1) 市内外の美術、文学、まちづくり等の団体と多様な文化を切り口にして協力、連携体制をとることで市民に対して質の高いサービスを提供
  - (2) 行政や民間のアートを活用した事業への協力
    - ・「オンラインで動画クリエイター展に行ってみよう！」（動画クリエイター展関連イベント：学校への登校が難しい生徒を対象とした熊本市教育委員会との協働事業）

- ・「目指せシニア YouTuber！ 上通 PR 動画ワークショップ」  
(動画クリエイター展関連事業：上通商栄会との連携)
- ・「ミュシャを探せ！」(ミュシャ展関連事業：RKK 企画事業部との協力事業  
(企画協力) 他

#### ※設置目的を達成するためのモニタリングの方策

- (1) 熊本市における、市民とともにある「現代の美術館」の在り方を検証する
  - ・外部審議会を設置し、外部審議員（任期2年）とともに当館の課題を検証し、中長期的な改善に取り組む

#### ※熊本市の文化施策への連携、協力のための方策

- (1) 熊本市各課と交流を密にすることで情報を共有する
- (2) 財団が持っているネットワーク・経験を活かして「まちづくり」に関するイベントを実施する
- (3) 上質な生活都市熊本の実現に近づけるため、教育・福祉・産業など様々な分野と連携した取組を進め、アートの視点を通じて地域の問題解決に貢献する
  - ・日比野館長の「御用聞き」（希望する各課との懇談、一昨年度より継続）

CAMK コレクション展 vol. 7

## 未来のための記憶庫

CAMK Collection Exhibition Vol. 7

### *Memory Storage for the Future*

2023年4月29日(土)～6月25日(日)

各種の展覧会は、会期を終えれば姿を消してしまいます。しかし、その出展作の一部が熊本市現代美術館のコレクションに組み込まれることで、その企画や作品の記憶は、展覧会の同時代にいわせた人々だけでなく、10年後、20年後、さらに未来を生きる人たちにも共有され続けていくことになります。それらの企画や作品は、コレクションによって「熊本の一部となる」ともいえるでしょう。コレクションとは時代を超えて受け継がれる一種の記憶庫であり、地域のアイデンティティを形成する存在でもあるのです。

本展では、当館の約20年の活動のなかで蓄積されてきた文化的記憶をたどりながら、パブリックコレクションの意味を確かめ直すことを試みます。



[左] マリーナ・アブラモヴィッチ 《Count on Us》2003 映像インスタレーション 熊本市現代美術館蔵  
© Marina Abramović

[右] 川内倫子《川が私を受け入れてくれた》シリーズより 2016 発色現像方式印画 熊本市現代美術館蔵

# 動画クリエイター展

Online Video Creators

2023年7月8日（土）～9月24日（日）

今や小学生のなりたい職業の一つにあげられるほど、絶大な影響力を持つ YouTuber。本展は、それらの動画が持つパワーに着目した展覧会です。一本の動画に隠された努力や思い、人をひきつける工夫など、現在活躍する動画クリエイター（YouTuber）9組の“番組制作の舞台裏”を大公開します。

会場には YouTuber の撮影スタジオの再現コーナーや、動画制作の体験ブースも登場。グリーンバックの前で好きに動いてみたり、VTuber になってみたり……さまざまな YouTuber のなりきり体験を楽しむ、“ジブン発信”のヒントが見つかる展覧会です。

参加クリエイター：はじめしゃちょー、フィッシャーズ、おめがシスターズ、鹿の間、しらすた、葉一、ひまひま、ポッキー、リュウジ



# 遠距離現在 Universal / Remote

## *Universal / Remote*

2023年10月7日（土）～12月17日（日）

パンデミックをきっかけに考えるようになった社会の在り方、その中の私たちの暮らしや労働など、様々な事象を現代美術を通して考察する展覧会です。全世界規模「Pan-」と、非対面の遠隔操作「リモート」の2つの視点から、グローバル資本主義や社会のデジタル化といった現代美術における従来のテーマを新たに捉えなおします。過剰な監視システムや精密なテクノロジーのもたらす滑稽さ、その中で生きる人間の深い孤独を感じさせる作品群は、今の時代、またポストコロナ時代の世界と真摯に向き合うものです。

井田大介、トレヴァー・パグレン、ヒト・シュタイエル、シュ・ビン、ティナ・エングホフ、地主麻衣子、チャ・ジェミン、木浦奈津子、エヴァン・ロスの9人による、2000年代から現在までの作品のみで構成される本展は、この時代に対するアーティスト、同時代を共に生きる美術館の応答でもあるでしょう。



Installation view of Hito Steyerl—A Sea of Data, National Museum of Modern and Contemporary Art, Korea (MMCA), 2022.

Image courtesy of National Museum of Modern and Contemporary Art, Korea (MMCA).

Photography by HONG Cheolki.

Courtesy of the Artist, Andrew Kreps Gallery, New York and Esther Schipper, Berlin.

## ミュシャ展 マルチ・アーティストの先駆者

### Alfons Mucha : Multitalented Artist

2024年2月10日（土） - 4月7日（日）

アール・ヌーヴォーの代表的な画家アルフォンス・ミュシャ（1860-1939）は、サラ・ベルナールの演劇ポスター「ジスモンダ」など魅力的で自信に満ちた女性を描いた数々のポスター作品で知られていますが、実際に彼が手掛けたジャンルは非常に多岐にわたりました。本展では、特にデザインの仕事に着目することで、マルチ・アーティストとしてのミュシャの先駆性を紹介します。

チェコ在住のズデニェク・チマル博士のコレクションから、劇場ポスター、書籍の挿絵、ポストカード、お菓子や香水のパッケージ、宝飾品などを中心に、油彩画、水彩画、素描、写真まで数々の貴重な作品を一堂に会し、ミュシャ芸術の全貌をときあかします。



右：ポスター「ジスモンダ」1894年、リトグラフ  
チマル・コレクション

左：ポスター「黄道十二宮」1896年、リトグラフ  
チマル・コレクション

